

## 第1回 六甲山系山田川地域学習ゾーン検討委員会

## 議 事 要 旨

1. 開催日時：平成24年10月11日(木) 14:00～16:00
2. 開催場所：山田地域福祉センター 1階 会議室
3. 出席者：

## 【委員】

宮田 隆夫	神戸大学名誉教授	構造地質学
香西 直樹	六甲山自然案内人の会 代表	自然(六甲全体)
鷺尾 正則	神戸市立南五葉小学校 校長	自然(郷土)
山口 剛	神戸市立君影小学校 教諭	郷土史
前中 忠博	山田川を美しくする会 代表	地域活動
神野 忠広	六甲砂防事務所事務所長	砂防・防災

## 【事務局】

六甲砂防事務所	綾木副所長、森東課長、杉浦係長
株式会社エイト日本技術開発	田中、吉川、松島

## 4. 配付資料

- 議事次第
- 第1回検討委員会資料(資料①～⑦)
- 参考資料 「みんなで語り、伝えよう！夙川物語」「主な学習要素(山田川流域)」

## 5. 議 事

1. 事務所長あいさつ	・六甲砂防事務所 神野所長あいさつ
2. 委員紹介	・各委員、事務局による自己紹介(資料①)
3. 委員会設立趣旨、規約(委員長の選任)	・事務局による説明(資料②)
4. 検討委員会での検討内容・スケジュール(案)	・事務局による説明(資料③)
5. 山田川流域の特性・主な学習要素について	・事務局による説明(資料④、参考資料)
6. 学習ストーリー骨子と散策ルートのポイントについて	・事務局による説明(資料⑤)
7. 事前説明・ヒアリングにおける意見概要等について	・事務局による説明(資料⑥)
8. 意見交換	
9. 冊子における「わかりやすい表現」について	・事務局による説明(資料⑦)
10. 閉会	・六甲砂防事務所 神野所長あいさつ

## <冊子の内容・情報に関する意見概要>

主 な 意 見 の 概 要
<p><b>■地質的特色について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地質の上からは、山田川地域は断層と断層に挟まれているため、地質に制約が加わっており、そのようなことからの特色を出せれば良いと思う。</li><li>・山田川には非常にきれいな段丘面が発達している。</li><li>・山田川地域にも様々な岩石が出てくるので紹介したい。</li><li>・六甲山には花こう岩以外に古い地層が残っており、帝釈山周辺にも様々な岩石があるので触れていきたい。(宮田委員長)</li></ul>
<p><b>■水晶や化石について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地獄谷大滝の周辺に水晶谷・水晶山という場所があり、もともと水晶が採れたのでそういう名前が付いたと思われるので、鉱物の名前が付いた地名などは触れるべきではないか。水晶が採れたということであれば、子どもに伝えることにより興味を抱くのではないか。(宮田委員長)</li><li>・産業として水晶を採るといったことは無かったと思うが、山田川の上流は花こう岩が採れ、子どもの頃はその花こう岩を割って水晶と採って遊んでいた。また、川の石を割って中から貝などの化石が採れた。(前中委員)</li><li>・君影周辺も神戸層群であり、化石が見られる。雄岡山、雌岡山の特に雄岡山では水晶が見られる。(鷺尾委員)</li></ul>
<p><b>■山田川の名称について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「山田川」の名前は地域で親しまれ、また、砂防事務所も使用しているが、正式な河川名は「志染川」となっており混乱する恐れがある。(宮田委員長、前中委員、神野委員)</li></ul>
<p><b>■山田川の特性について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・山田川は名前を変えて加古川へ流れ込んでいるが、その名前のことや流れている各町をどのように潤しているであるとか、他の地域の役に立っているといったことも盛り込んでどうか。また各町に長い水路があるので、それをどこからどこまで流れているか歩いてみるのもひとつの要素かもしれない。(前中委員)</li></ul>
<p><b>■山田川の植生について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・六甲から山田川、帝釈・丹生山系周辺の生き物の中に以下を反映してほしい。帝釈・丹生山系はチョウの観察に適したフィールドで、ミヤマカラスアゲハ・オナガアゲハ・スミナガシ・アオバセセリなどが見られ、これらは但馬や西播磨の山地でしか見ることができない。その他にもオオムラサキ・ヒオドシチョウをはじめ、ウラキンシジミ・ウラゴマダラシジミ・アカシジミなど数多くのシジミチョウの仲間も見ることができる。チョウの種類が多いということは、植生も豊かであるということなので、この山田の里にはまだ豊かな自然が残っているということを記述してはどうか。(香西委員)</li><li>・山田川にはアシ・カヤなどが生えており、それを活用して山の南斜面に昔の生活の場が引き継がれている。{前中委員}</li></ul>
<p><b>■生き物について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・動植物の紹介では、まとめて紹介しているが、貴重な山田の地域でしか見られないような種と普通にみられる種を分けたりしてはどうか。地理や歴史に関してはボリュームがあるが自然に関して少し薄いように思える。(鷺尾委員)</li></ul>

<p><b>■六甲山の木について</b></p> <p>・六甲山はハゲ山から 100 年ほどかけて植生が豊かになったというところで、木の紹介が無い。六甲山の木を活用して山田の里のような里山を切り開いていったのではないか。(鷺尾委員)</p>
<p><b>■ドングリの記述について</b></p> <p>・どんぐりの実やクヌギ・コナラなどの実など、「こんな実を集めたら面白い」という内容を盛り込めば子どもたちは楽しいと思う。(鷺尾委員)</p>
<p><b>■六甲山のトンネルについて</b></p> <p>・六甲山の表と裏の繋がりについて考えてみると、六甲山には東西南北様々なトンネルが通っており、六甲山は強引に活用されているというようなことも一つの学習要素になるのではないか。(前中委員)</p>
<p><b>■民話や言い伝えについて</b></p> <p>・ポイントを紹介するだけでなく、昔からの言い伝えのようなことにも触れてみてはどうか。天狗岩について民話が残っているらしい。(山口委員)</p>
<p><b>■農村歌舞伎について</b></p> <p>・農村歌舞伎について、水野忠邦の改革（天保の改革）によって都市部で芸能関係が禁止されていった中で山田に流れていった。山田では農村歌舞伎は根強く残っていた。(山口委員)</p>
<p><b>■浄瑠璃について</b></p> <p>・浄瑠璃では、他地区との交流もあったようなので、裏話的な要素も盛り込んではどうか。(山口委員)</p>
<p><b>■山田錦について</b></p> <p>・山田錦はたいへん有名であるが、発祥の地であることを紹介してはどうか。(宮田委員長)</p>
<p><b>■砂防事業について</b></p> <p>・山田川地域は、平成元年から六甲砂防としては山田川流路工などを宅地開発と連動して整備していった箇所であるので、そのことを触れてもよいのではないか。(神野委員)</p>
<p><b>■表六甲・裏六甲の表現について</b></p> <p>・表六甲・裏六甲という言葉が適切かどうか。六甲山北地域や北面などの適切な表現を使う方がよい。(宮田委員長)</p>

## <その他、意見概要>

主 な 意 見 の 概 要
<p><b>■散策ルートについて</b></p> <p>・丹生山縦走ルートを入れてはどうか。チョウの観察ルートとしても面白い。コウヤボウキの花が咲く 10 月頃は、アサギマダラが群れを成して飛んでいる。秋はヤマモミジやクヌギなどの紅葉が大変きれいである。春にはヤマコブシの仲間が咲く。(香西委員、前中委員)</p> <p>・帝釈・丹生山系にも登山道や要素はあるが、道が急であるなどの理由で行く人は少ない。ほとんどが六甲山の方へ登る。(前中委員)</p> <p>・箕谷川以東の支川が入っていないので含めるべきである。また、大池に分水嶺があり、分水嶺より西は山田川となっているので、大池あたりまでを入れてほしい。(前中委員)</p>